

公共施設のあり方を考えよう！

問い合わせ先 財産管理課 28-6167

シリーズ 第2回

公共施設マネジメントの取り組み

公共施設の現状

シリーズ第1回では、次の4つの現状について、皆さまに把握していただきました。

- 公共施設などの老朽化が進む
- 人口減少・少子化・超高齢社会を迎える
- 公共施設が多すぎる
- 財政状況が厳しくなってくる

公共施設再編の方向性

公共施設の現状を踏まえ、これから先も、市民の皆さまに安心して快適に公共施設を利用していただくために、本市はさまざまな環境に対応し、将来の子どもたちへ負担をかけずに引き継ぐことができる公共施設へと見直す取り組みを進めています。また、本市が管理している施設は、定期的な点検・診断及び耐震化などを含む維持管理・改修を実施して適切に使用していきます。

公共施設再編の手法

公共施設再編の手法としては、建物そのものと機能・サービスに分けた評価と再編方針の検討を行います。また、建物を廃止する場合であっても、必要な機能・サービスを維持し、市民サービスの低下を来さないよう配慮する必要があります。

- 官民連携
資金やアイデア、活力などを公共サービスに生かす。
- コスト削減
光熱水費、人件費などの削減、運営の効率化などによりコスト削減を図る。
- 長寿命化
計画的な大規模改修により、建物の構造・設備・機能などの耐久性を高め、建物自体をできるだけ長く利用する。
- 受益者負担の見直し
施設の利活用に関して施設使用料の適正化を図る。

本市が公共施設マネジメントに取り組んでいる施設

複合化 ～川之江地域交流センター（仮称）～



複合化…複数の施設や機能を一つの建物に統合する手法

川之江公民館、川之江児童館、川之江老人憩いの家などの施設機能及び、かわのえ高原ふるさと館の貸館・講座機能を集約し、子どもから大人までが交流できる複合化施設として整備します。

集約化 ～市民文化ホール～



集約化…複数の施設が持つ類似機能を一つの施設にまとめる手法

老朽化した市民会館川之江会館と、既に閉館した三島会館の再編により、両会館の機能を統合し、施設を集約化することで、維持管理費や光熱水費などのライフサイクルコストの削減を図ります。

将来に負担を残さない行財政運営に～拡充から縮充へ～

今後、本市の公共施設を現状のまま維持し続けることは難しく、必要な公共施設の質や量も変わってきます。今回は、本市の現状と課題から公共施設再編の手法の一部を身近に例えたお話として紹介し、皆さまと一緒に公共施設のあり方について考えてみたいと思います。

我が家に例えると…

① おじいちゃん、おばあちゃん！遊びに来たよ！

いっしょじゃい。

よく来たの！

② 父さんや母さんが住んでいる家も古くなったなあ。

そうねえ。私たちが結婚したときに建てた家だから、かなり経つわね。

③ そうだな。傷んだところは修理してきたけど、もう限界かな。

リフォームしないといけない時期が来たのかな。

④ 耐震診断で耐震性能が低いと診断されたから、リフォームではねえ…。

でも、私たちの家計では、建て替えるお金がないし…。

⑤ 実は私たちも、中古で買った家がだいぶ傷んできたから、そろそろ新しい家を建てたいと考えているんだよ。

⑥ そうだ！それなら父さんたちの家を建て替えて、私たちと一緒に住むというのはどうかしら？

⑦ それはいいアイデアだね！私たちの家を売ったお金を建て替え費用に充てれば、負担を少なくすることができるんじゃないかな。

⑧ 将来のことも考えて、バリアフリーがいいわね！

⑨ 息子たちがいるから安心だ！

家族が増えて明るくなったね。

建て替え

新築

売却

これは、本市の老朽化した建物をどうするかということ、身近に例えたお話です！本市の公共施設について、一緒に考えてみましょう！

※次回は、公共施設等総合管理計画の内容について紹介します（広報平成29年3月号掲載予定）